

# 学校教育活動 ～学校教育活動アンケート(教師・生徒・保護者)より～

公表資料

※指数の出し方についてはP.11に記載

- ・ 指数が2.5P未満となるものは改善を要する課題、3.0P未満となるものは注意を要する課題と判断する。
- ・ [ ]はR3後期との比較(23年における[ ]は同じ生徒集団の半年前の数値との比較)

## ◆短期的な課題

### ①分かりやすい授業

#### 注目した項目とその指数・評価[教務主任]

教師:ねらいを明確にした授業を行っている	全校 3.2P[-0.2P]			
生徒:授業はわかりやすい	全校 3.3P[+0.1P]	1年 3.4P	2年 3.2P[-0.1P]	3年 3.3P[+0.1P]
保護:おさんは授業がわかりやすいと思っている	全校 2.7P[+0.1P]	1年 2.7P	2年 2.6P[+0.1P]	3年 2.8P[+0.1P]

#### 分析[研究主任]

全校生徒、保護者ともに+0.1Pとやや上昇が見られる。それに対して、教師は-0.2Pとやや低下している。「ねらいを明確にした授業」がどのようなものなのか、ということについての共通理解が不十分であるためではないかと考える。

#### 改善策・計画等[研究主任]

「ねらいを明確にした授業」を意識することで、「教科等の目標や内容」と「子どもの実態」を踏まえて教材研究や授業実践を行うようになるため、教師の取組は非常に重要である。また、単元を通してつきたい力を教師と生徒がはっきりと共有することで、生徒も意欲的に授業に取り組むことができると考える。要請訪問での指導主事からの指導をその教科以外の教員も受け、共通理解を図ること、毎月調査を行って教師に意識付けることを継続していく。また、日頃の授業内で基礎・基本の定着を図るためにも、生徒の習熟度を把握しながら授業をすることが必要である。各教科、既習事項を随時確認しながら進めることで、系統立てた授業を行うようにする。

### ②家庭学習の定着

#### 注目した項目とその指数・評価[教務主任]

教師:家庭学習の習慣(1時間以上)が身につけている	全校 2.5P[+0.1P]			
生徒:家では毎日1時間以上学習している	全校 3.2P[+0.1P]	1年 3.6P	2年 3.0P[-0.1P]	3年 3.1P[+0.2P]
保護:家庭学習の習慣が身につけている(1時間以上)	全校 2.7P[±0.0P]	1年 2.9P	2年 2.5P[+0.1P]	3年 2.8P[+0.1P]

<参考 家庭学習時間調査(R4 5/24～30 / R3 6/1～7)>

学年平均(h)	1年	9.8h	2年	7.5h / 8h	[-0.5h]	3年	10.0h / 7.9h	[+2.1h]
週9h以上	1年	53%	2年	26% / 32%	[-6%]	3年	52% / 36%	[+16%]
週6h以下	1年	14%	2年	38% / 26%	[+12%]	3年	17% / 27%	[-10%]

#### 分析[研究主任]

全校生徒の回答は昨年度と比較し+0.1P。3年生は+0.2Pと若干の増加が見られる。「家庭学習時間調査」でも、1年前と比較して週平均9時間以上学習した生徒の割合が16%も増加した。集会や学習だよりを通して進路を意識し、学習に対する意欲が上昇した生徒が多くいると感じる。2年生は生徒の数値が0.1P減となっている。「家庭学習時間調査」でも週平均9時間以上の割合が6%低下し、6時間以下の生徒が12%増加している。これは次の「SNSやインターネット使用」の結果とも繋がっているものと思われる。1年生は昨年度の1年生(現2年生)と比較して、学習時間の週平均は1.8時間多く、週平均9時間以上の生徒の割合も20%高い。小学校からの家庭学習の習慣を継続しており、良好な状態と言える。

#### 改善策・計画等[研究主任]

家庭学習を定着・充実させるには、生徒一人一人に自分の目標を明確に持たせ、それに向けて「自ら課題を見つけて学習する意識」を育てることが重要だと考える。学校側からの課題だけでなく、自主的に授業の復習をしたりワークを進めたりするなど、進んで学習することのできる生徒を育てたい。そのきっかけとなるよう、家庭学習の方法や内容を他学年と共有できるような掲示物を作成し、各学年で掲示していく。懇談や各教科の授業、集会などでも、教師から家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えることを、今年度は意識して取り組んでいるので、継続していく。また、学習に関する悩みを生徒同士で共有し、解決に向けてアドバイスし合うことができる取組をCL会を中心に行っていきたい。

## ◆学校関係者評価委員からのご意見

・自学などの家庭学習において、質の高いものを目指すための様々な手立てを本校でも工夫していきたい。

・毎日の自学ノートの取組は、勉強が苦手な生徒にとっては難しいかもしれない。個に応じたアプローチの仕方をお願いしたい。(子どもの興味が広がるような調べ学習の課題を提示する等)

## ◆中・長期的な課題

## ③SNSやインターネットの使用のルール ④SNSやインターネットの使用と学習 ※動画・ゲームも含む

## 注目した項目とその指数・評価[教務主任]

③ 家庭では、SNS等の使用について ルールを決めている	生徒:全校 2.8P [±0.0P]	1年 3.1P	2年 2.8P[-0.1P]	3年 2.7P[±0.0P]
	保護:全校 2.8P [±0.0P]	1年 3.2P	2年 2.7P[-0.1P]	3年 2.8P[±0.0P]
④ SNS等は学習に支障のないように 使用している	生徒:全校 3.1P [±0.0P]	1年 3.4P	2年 3.0P[-0.2P]	3年 2.9P[-0.1P]
	保護:全校 2.7P [±0.0P]	1年 2.7P	2年 2.7P[+0.2P]	3年 2.8P[±0.0P]

<参考 生活アンケートより> ※数値は生徒の割合(%)

・ SNSやインターネット等に1時間/3時間以上費やす	1年 74/19	2年 83/29 [ ±0/+5]	3年 84/20 [ -4/ -3]
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNSに1時間以上/3時間以上費やす</li> <li>・ 動画サイトに1時間以上/3時間以上費やす</li> <li>・ ゲームに1時間以上/3時間以上費やす</li> </ul>	1年 34/ 4	2年 40/ 9 [ +8/-1]	3年 37/ 4 [ +5/ -3]
	1年 44/11	2年 71/12 [ +9/-2]	3年 52/ 8 [ -3/ -3]
	1年 32/ 7	2年 47/ 9 [ ±0/±0]	3年 41/ 9 [ -3/ ±0]

## 分析[生徒指導主事・研究主任]

SNS等の使用についてルールを決めているかどうかの問いに関して、生徒と保護者の感じ方に大きな差はなく、昨年度からの大きな変化も見られない。逆に言えば「特にルールを設けていない」家庭も依然として一定数あるということになる。学習への影響について、生徒と保護者の感じ方に差がみられる。生徒は学習への影響をあまり感じていないが、保護者は生徒より影響を感じていることがうかがえる。

インターネットの使用状況を見ると、全体的に前回調査より増えてはいないが、1時間以上SNSやインターネットに費やしている生徒が8割弱いる。また、2年生において、SNSや動画サイトに3時間以上費やす生徒が5ポイント増加した。部活や勉強が忙しくなっている2年生がこの値では、睡眠時間などの必要な時間を削っていることも考えられる。3年生では昨年度より減少してはいるものの、SNSやインターネット等に3時間以上費やす割合が2割というのは、学習面及び生活面での支障が生じていると予想される。

## 改善策・計画等[生徒指導主事・研究主任]

放課後の時間の使い方を考え直す機会を設ける。12年生は、部活動・食事・睡眠・家庭学習等を適切に取ってあげれば、SNSやインターネットに使える時間はそれほど多くないことを自覚できるようにする。3年生は、勉強時間が増える一方、スマホ等に触る時間も増える傾向にあるので、部活動引退後の放課後の過ごし方を見直せるようにする。生徒自身が、時間をコントロールし、生活リズムを整えることを意識できるように、学校生活ノート「ひかりの」の有効的な活用を考える。また、家庭学習時間調査におけるスマホ等の利用時間の記録も継続して行い、そのデータを学年だより等で共有することで、学校・家庭が連携して学習時間の確保や生活リズム改善に取り組んでいく。

ネットトラブルに対しては、外部機関との連携を継続するとともに、生徒会や各学年CL会との連携も計画する。「持たない」ではなく、「使い方・モラル」(利用時間、悪口や不適切な画像・動画の投稿、個人情報の保護)という観点で、生徒自身で考え・改善できるよう支援する。

## ◆学校関係者評価委員からのご意見

・ネットの使用については、マイナス面ばかりではない。自学と絡めて考えると、「調べたい」と思わせるような課題を提示することで、ネットの目的(コンテンツ)も変わってくるはず。自学を通して、ネット利用を改善することもできるのではないかと。